

身体障がい者診断書・意見書 (ヒト免疫不全ウイルス
免疫機能(13歳未満)) 障がい用

総括表

氏名	年 月 日生 () 歳	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女
住 所		
① 障がい名(部位を明記)		
② 原因となった 疾病・外傷名		交通、労災、その他の事故、戦傷、戦災、 自然災害、疾病、先天性、その他()
③ 疾病、外傷発生年月日		年 月 日・場所
④ 参考となる経過・現症(エックス線写真及び検査所見を含む。)		
		障がい固定又は障がい確定(推定) 年 月 日
⑤ 総合所見		
		[将来再認定 <input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要] [再認定の時期 年 月]
⑥ その他参考となる合併症状		
上記のとおり診断する。併せて以下の意見を付す。 年 月 日 病院又は診療所の名称 所 在 地 診療担当科名 科 医師氏名		
身体障害者福祉法第15条第3項の意見〔障がい程度等級についても参考意見を記入〕		
障がいの程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障がいに		等級表による個別等級
・ 該当する (級相当)		部位 等級
・ 該当しない		
注意 1 障がい名には現在起こっている障がい、例えば両眼失明、両耳ろう、右上下肢麻痺、心臓機能障がい等を記入し、原因となった疾病には、角膜混濁、先天性難聴、脳卒中、僧帽弁膜狭窄等原因となった疾患名を記入してください。 2 歯科矯正治療等の適応の判断を要する症例については、「歯科医師による診断書・意見書」(別紙2(その2))を添付してください。 3 障がい区分や等級決定のため、豊田市社会福祉審議会から改めて次頁以降の部分について問合せする場合があります。		

6か月以上の小児に2か月以上続く口腔咽頭カンジタ症	有・無
反復性単純ヘルペスウイルス口内炎(1年に2回以上)	有・無
2回以上又は2つの皮膚節以上の帯状疱疹	有・無
細菌性の髄膜炎、肺炎または敗血症	有・無
ノカルジア症	有・無
播種製水痘	有・無
肺炎	有・無
心筋症	有・無
平滑筋肉腫	有・無
HIV腎症	有・無
臨床症状の該当数〔 個〕……①	

注6 「臨床症状の該当数」の欄には「有」を○で囲んだ合計数を記載すること。

ウ 軽度の症状

臨 床 症 状	左欄の状況 の有無
リンパ節腫脹 0.5cm以上の腫脹が2か所以上あること。 ただし、対称性は1か所とみなす。	有・無
肝腫大	有・無
脾腫大	有・無
皮膚炎	有・無
耳下腺炎	有・無
反復性又は持続性の上気道感染	有・無
反復性又は持続性の副鼻腔炎	有・無
反復性又は持続性の中耳炎	有・無
臨床症状の該当数〔 個〕……②	

注7 「臨床症状の該当数」の欄には「有」を○で囲んだ合計数を記載すること。

1 HIV感染確認日及びその確認方法

HIV感染を確認した日 年 月 日

小児のHIV感染は、原則として以下の(1)及び(2)の検査により確認される。
 (2)についてはいずれか1つの検査による確認が必要である。ただし、周産期に母親がHIVに感染していたと考えられる検査時に生後18か月未満の小児については、さらに以下の(1)の検査に加えて、(2)のうち「HIV病原検査の結果」又は(3)の検査による確認が必要である。

(1) HIVの抗体スクリーニング検査の結果

判定結果	検査法	検査日 年 月 日	検査結果 陽性・陰性

注1 酵素抗体法 (ELISA)、粒子凝集法 (PA)、免疫クロマトグラフィー法 (IC) 等のうち1つを行うこと。

(2) 抗体確認検査又はHIV病原検査の結果

抗体確認検査の結果	検査法	検査日 年 月 日	検査結果 陽性・陰性
HIV病原検査の結果		検査日 年 月 日	検査結果 陽性・陰性

注2 「抗体確認検査」とは、Western Blot法、蛍光抗体法 (IFA) 等の検査をいう。

注3 「HIV病原検査」とは、HIV抗原検査、ウイルス分離、PCR法等の検査をいう。

(3) 免疫学的検査所見

検査日	年 月 日
IgG	mg/dℓ

検査日	年 月 日
全リンパ球数 (①)	/μℓ
CD4陽性Tリンパ球数 (②)	/μℓ
全リンパ球数に対するCD4陽性Tリンパ球数の割合 ([②] / [①])	%
CD8陽性Tリンパ球数 (③)	/μℓ
CD4/CD8比 ([②] / [③])	

2 障がいの状況

(1) 免疫学的分類

	検査日 年 月 日	検査値	免疫学的分類
CD4陽性Tリンパ球数		/μℓ	重度低下・中程度低下・正常
全リンパ球数に対するCD4陽性Tリンパ球数の割合		%	重度低下・中程度低下・正常

注4 「免疫学的分類」欄では「身体障がい認定基準」6ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能障がい(2)のイの(イ)による程度を○で囲むこと。

(2) 臨床症状

以下の臨床症状の有無(既往を含む)について該当する方を○で囲むこと。

ア 重度の症状

指標疾患がみられ、エイズと診断される小児の場合は次に記載すること。

指標疾患とその診断根拠

注5 「指標疾患」とは「サーベイランスのためのHIV感染症/AIDS診断基準」(厚生省エイズ動向委員会、1999)に規定するものをいう。

イ 中程度の症状

臨床症状	左欄の状況の有無
30日以上続く好中球減少症 (<1,000 μℓ)	有・無
30日以上続く貧血 (<Hb 8g/dℓ)	有・無
30日以上続く血小板減少症 (<100,000 μℓ)	有・無
1か月以上続く発熱	有・無
反復性又は慢性の下痢	有・無
生後1か月以前に発症したサイトメガロウイルス感染	有・無
生後1か月以前に発症した単純ヘルペスウイルス気管支炎、肺炎又は食道炎	有・無
生後1か月以前に発症したトキソプラズマ症	有・無